

yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No. 116
平成 20 年 1 月 28 日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

コンピュータスキルを学ぶこと

コンピュータを使って何か作業をするとき、たいていの場合、自分なりのやり方でも何とか当面の目的(印刷して配布するための文書を作る、など)を達成することができます。

「自己流」というと、何かいけないやり方のような印象を受けるので、こういう言い方はしないようにしています。コンピュータを操作するやり方に、「正しい」やり方があるわけではないからです。

しかし、この「自分なりのやり方」は、往々にして手間がかかり、できあがりの見栄えもいまいちで、完成品の使い回しもしにくい場合が少なくありません。

コンピュータを使うことのメリットは、

- ・効率よく作業できる
- ・簡単に見栄えのいいものができる
- ・一度作ってしまえば流用ができる

などですから、「自分なりのやり方」では、メリットどころか、コンピュータを使ったがために、却って逆効果にもなりかねません。

せっかく身近に使える、こんなに便利な道具があるわけですから、できるだけ上手に使いこなして、これらのメリットを享受できるようにしたいものです。

授業で子どもたちに教えているのは、こういったメリットに繋がるスキルを中心にしています。アプリケーション(ワードなど)を使った作品作りを通して、コンピュータ全般に通じる、応用の利くスキルを覚えて、自分からコンピュータを使って何かしようとするきっかけや、実際の作業でのヒントになりそうな知識を蓄えようとしています。

子どもたちが家庭でコンピュータを使う場合のほとんどが、娯楽であることが、子どもたちへの質問から伺えます。(インターネットに関して、「調べる」という答えが多いものの、実際にはゲームをしていたり、ゲームやアニメ関係のページを閲覧しています)確かに、コンピュータ(とインターネット)を使って楽しむことができますが、それだけに使うにはあまりに機能は豊富で、無駄の多い道具になっています。コンピュータを有効に使える、ということが、こういった「無駄」を少しでも「便利」に変えられればいいと思っています。